

～基本技術の徹底!! 収量・品質の向上を目指しましょう!!～

1. 播種前から収穫まで排水対策を徹底	2. 石灰質資材と堆肥等の施用で土づくり	3. 適正な栽植本数の確保	4. 晴れ間を逃さず2回培土を実施	5. 病害虫防除の徹底	6. 開花期から9月上旬まで水分不足時は畦間かん水	7. 子実水分22%を切ったら刈取り開始
---------------------	----------------------	---------------	-------------------	-------------	---------------------------	----------------------

目標単収200kg/10a以上
3等以上を60%以上に

目皿の交換

スプロケットの調整

培土の目安

病害虫防除は遅れないよう実施

刈取適期

月別	4月	5月	6月		7月		8月		9月		10月			
旬別			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	
			播種・出芽・苗立		2～3葉期		4～5葉期		開花始め	着莢始め	莢伸長期	子実肥大期	黄葉期	落葉・成熟期
主な作業	排水対策	土づくり	施肥 耕起 播種 除草 散布	培土(第1回)	培土(第2回)	ウコンノメイガ防除	暴防除(1回目)	暴防除(2回目)	随時防除 (害虫発生時)			収穫	乾燥調製	

← 開花期以降晴天が3日続いたら畦間かん水 →

1. 排水対策の徹底

- 4月中旬には場が乾いている時に額縁排水溝を掘る
- 排水不良田は、積極的に心土破碎を実施する
- 播種時、培土時にできた溝は、基幹排水溝に繋ぐ

①水口はしっかり止める
②排水口は低く掘り下げる
③基幹排水溝は播種直後に設置

サブソイラーによる心土破碎

2. 土づくり

○ pHを高めるため、石灰質資材を必ず散布する (10a当たり)

土改資材	一般田	赤土客土田
グリーンウェイブDX	75～90kg	
苦土石灰	100～200kg	
粒状ようりん	—	20～40kg

○ 有機物で地力の向上

堆肥等の10アール当り施用量の目安
牛ふん・豚ふん、糞から堆肥 1～2t
発酵鶏糞 → 100～200kg

緑肥作物のすき込み(5月中旬)
エンバク: 3月下旬播種(播種量6～8kg/10a)
ヘアリーベッチ: 前年秋播種(播種量4kg/10a)

3. 種子消毒

○ 主要病害虫防除のため、種子消毒を必ず実施する

薬剤名	対象病害虫	処理方法
クルーザーMAXX	アブラムシ類、タネバエ ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ 茎疫病、リゾクトニア根腐病 苗立枯病(ピシウム菌)、紫斑病	乾燥種子5kgあたり 原液40ml塗抹処理

4. 耕起～播種

- 6月上旬以降のは場が乾いている日に播種する
- 播種時期や品種に応じてスプロケットと目皿を交換する
- 耕起、施肥、播種、除草剤散布までの作業は一日で終える
- 青立ち防止のため、過剰施肥は避ける

〈耕起〉
砕土率(2cm以下の土塊)60%以上を目安に起こす

〈施肥(側条)〉 (10a当たり)

資材名	一般田	赤土客土田
基肥 BB084	20kg	30kg

※基肥量は地力や堆肥の施用量に応じて加減しましょう

○ 3cmの播種深度と栽植本数の確保に努める

品種・播種時期別の目標栽植本数の目安 (10a当たり)

品種	播種時期	栽植本数(本)	条間(cm)	株間(cm)※1	播種量(kg) (大粒換算)※2
エンレイ (えんれいのそら)	6月上旬	14,000～16,000	80	16～14	5.5～6.3
	6月中旬	16,000～18,000		14～12	6.3～7.0
シュウレイ	6月上旬	12,000～15,000	80	19～15	4.8～6.0
	6月中旬	15,000～18,000		15～12	6.0～7.2
オオツル	6月上旬	10,000～12,000	80	22～29	4.0～4.8
	6月中旬	12,000～14,000		19～16	4.8～5.6

※1 二粒播き
※2 苗立率90%で算出

※大豆の連作はやめましょう
(雑草・病害虫が増え、地力も低下)

5. 雑草防除

雑草防除は、培土が基本! 晴れ間を逃さず、2回実施!

〈播種直後〉

- 播種、覆土後、土に湿り気があるうちに散布する
- 砕土率を高め、均一に散布する

〈生育期間中〉

- 発生雑草に応じた薬剤を使用し、まき遅れない
- 大豆に葉害が出る場合もあるので、使用上の注意をよく読んで使う

発見したら雑草が種子をつくる前に抜き取りましょう

マルバルコウで覆いつくされたほ場

播種直後	薬剤名	10a当たり散布量	適用雑草
播種直後	ラクサー粒剤	4～6kg	1年生雑草
	プロールプラス乳剤	薬量:400～600ml (水100ℓで希釈)	

大豆生育期	薬剤名	10a当たり散布量	適用雑草	処理方法	使用時期
大豆生育期	パワーガイザー液剤	薬量:200～300ml (水100ℓで希釈)	1年生雑草	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	出芽直前～3葉期 (雑草発生初期～2葉期)
	ポルトフロアブル	薬量:200～300ml (水100ℓで希釈)	1年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草茎葉散布	イネ科雑草3～10葉期 収穫30日前まで
	大豆バサグラン液剤	薬量:100～150ml (水100ℓで希釈)	1年生雑草 (イネ科を除く)	雑草茎葉散布 又は全面散布	大豆の2葉期～開花前(雑草6葉期まで) ただし収穫45日前まで
	ロロックス(水和剤)	薬量:300～500ml (水100ℓで希釈)	1年生雑草 (イネ科を除く)	畦間雑草茎葉散布※	大豆の生育期(雑草6葉期まで) ただし収穫45日前まで
大豆生育期	ザクサ液剤	薬量:100～200g (水100ℓで希釈)	1年生雑草	畦間・株間処理	本葉3葉期以降(雑草草丈15cm以下) ただし収穫30日前まで
	ザクサ液剤	薬量:300～500ml (水100ℓで希釈)	1年生雑草	畦間処理	雑草生育期 ただし収穫28日前まで

※ 畦間・株間に処理する場合は、必ず吊り下げノズルを使用する

6. 畦間かん水

- 7月中旬から9月上旬頃まで3日以上晴天が続く場合はかん水を行う
- 水が行き渡ったら、速やかに排水する

こうなる前に畦間かん水

水不足の大豆葉

7. 本田病害虫防除

○ 発生している病害虫を見極め、適期に防除する

基本防除	防除時期	対象病害虫	農薬名と使用方法	
			粉剤	液剤
基本防除	1回目 8月上旬 (開花期～若莢期)	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	トライトレボン粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ブランドム乳剤25(4,000倍) スタークル液剤10(1,000倍) 150ℓ/10a (2剤とも収穫7日前まで)
	2回目 8月中下旬 (1回目の10～14日後)	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	Zボルドー粉剤DL 3kg/10a ダントツH粉剤DL 4kg/10a (収穫7日前まで)	※ アミスタートレボンSE(1,000倍) 150ℓ/10a (収穫14日前まで)
随時防除	7月下旬～8月上旬	ウコンノメイガ (ハマキムシ) マメシクイガ	—	プレバソフロアブル5(4,000倍) 150ℓ/10a (収穫7日前まで)
	8月下旬～9月上旬	フタスジヒメハムシ カメムシ類	スタークル粉剤DL 3kg/10a (収穫7日前まで)	スタークル液剤10(1,000倍) 150ℓ/10a (収穫7日前まで)
	8月下旬～9月中旬	ハスモンヨトウ カメムシ類 マメシクイガ	—	※ トレボン乳剤(1,000倍) 150ℓ/10a (収穫14日前まで)

※混合剤も含めた総使用回数は、トレボンが2回まで

8. 刈取り

大豆専用コンバインの使用上の留意点

- 青立ち株や大きな雑草は、収穫前に抜き取っておく
- 子実水分が22%を切ったら刈取開始
- 刈取高さは地際から10cm程度とし、土を掻き込まない
- 刈取作業は莢の乾きを確認し、原則午前10時～午後4時までに行う
- 莢や茎が湿っている場合は作業しない

※規格外になると数量払いの対象になりません

汚損粒は絶対に出さない
※土や草汁が汚損粒の一番の原因です

食の安全は栽培記録とGAPの確実な実践から 作業の後は忘れず正確に記録しましょう!